

佐世保市立相浦中学校

所在地 佐世保市川下町277番地

校長名 宮原 龍美

生徒数 460名 学級数 15



教育目標 自らか学び、心豊かで、たくましい生徒の育成
校訓 今日も、明るく、誠実に

1 目的

本校生徒に実践してほしい事は、次の二点である。第1は校訓「今日も、明るく、誠実に」の実践である。この言葉は、たとえ辛いことがあった次の日であっても、明るく前向きに、笑顔で真面目に真心を持って信頼できる人へ成長してほしいとの願いがある。第二は、学校教育目標「自ら学び、心豊かで、たくましい生徒なろう」の実践である。中学時代の第2目標は自立である。自分から何かをやらうとすることができることである。その為には親や先生から言われて学習するのではなく自ら学ぶ習慣を作ること。学校では授業以外にも多様な体験活動があり、その活動を通して友との絆を大切にし、他者を思いやる豊かな心を育み、逞しい体と精神力を身につけることである。

2 本校のモットー

「凡事徹底」 ～偉大なる凡人たれ～

3 本年度のテーマ

- ◎ 豊かな心を育む教育活動の実践
- ◎ 美しい学校づくりの実践
- ◎ 生徒自らが生き方を考え、その力を身につけさせる教育



4 実践内容

◎相浦文化が育む自ら学ぶ心たくましい生徒の育成

(1) 凡事徹底の文化

本校の優れている点は、全校生徒が落ち着いた学校生活を送れ、大きな生徒指導上の問題がないことである。このことは、毎年、4月当初にモットーを掲げ全職員で共通理解のもと生徒達に徹底した指導を実践してきた成果である。今年度も「凡事徹底～偉大なる凡人たれ～」を掲げ、当たり前前を当たり前にするために、徹底して指導して定着させる取り組みを実践した。また、本年度はさらなる向上を目指し、「授業前の黙想、無言清掃」を新たに実践し、全校生徒が「挨拶・返事・時間厳守・整理整頓」で日本一にな



ることを目指し日々の学校生活を意欲的に送ることができた。

平素より、身近な生活・学習の場に視点を置くことで、美化に対する意識の向上をねらいとし、校舎外の環境美化に力をいれることとした。今年度11年目になるこの取組は、花の種類は変化していくものの、専門委員会の活動継続により、地域にも知れ渡るようになった。また、登校時に毎朝、各生徒がゴミ拾いを行うことが本校生徒に良き伝統として根付いている。生徒達の美化意識高揚させることが美しい学校づくりの一助となっている。

さらに、毎朝、曜日ごとに言葉を決め、8時15分より全校生徒が唱和する「朝礼5訓」の取り組みでは、新たな言葉を取り入れることで生徒の意識の高揚に繋げることができた。社会の常識として「挨拶・返事・時間を守る・整理整頓」を徹底的に指導し身につけさせることは変化の激しい未来を生き抜く生徒に必要な不可欠で有り、不易の教育実践である。今後も生徒達が常に向上心を持ち学校生活を送ることで、「凡事徹底」の文化を良き本校の伝統として継承していきたい。

(2) ほめる文化

本年度、全国学力学習状況調査結果から本校生徒の学力は改善傾向にある。これは本校が平成25年度～26年度の2年間、佐世保市教育委員会の指定を受け授業改善に取り組んだ。その研究の成果を生かし、全職員が共通理解のもと、授業改善と学力向上目指し「ほめ、認め、引き出す」授業展開を実践した結果である。ほめる習慣はプラスの発想の習慣であり、ほめられたことで喜びは大きく自信に繋がり、同じ事でも何度もほめるということを校長指導の下、各教師が授業の中で実践する「相浦中学びのスタイル」を定着させたことで自己肯定感を育成し学力向上が実現できたと考える。また、昨年度から実施している全校生徒の授業アンケート結果を各教科担任が確認することで個々の生徒の実態を把握した授業展開を実践したことも一助に繋がっている。本校生徒は「凡事徹底の文化」が浸透しており、真剣に授業に臨む姿勢が身についてきている。今後もこれまでの取り組みを定期的に検証し、繰り返し実践することで確実に学力も向上するものと確信している。

(3) つながる文化

様々なつながりが生む学校生活の充実
は生徒達の生きる力の育成に直結するものである。本校は校区内に大学、短大、高校、小学校、特別支援学校がある。

また、西海パールシーリゾート等、郷土の自然を学習する施設も近隣にある。その恵まれた教育環境を活用し、様々な体験学習を実践した。

1年生では、野外宿泊学習において、佐世保の豊かな自然を味わうとともに、入学当初の5月に実施することで団体行動を通して



基本的な生活習慣を身につけさせ、リーダーの養成と仲間づくりをねらいとして活動させることもできた。また、学級対抗で集団行動を披露するなど工夫を凝らした取り組みを企画し生徒達の意識の高揚に結ぶつけることができた。また、海きららの見学や海の学習会では実物を見て触れることや、九十九島の自然について専門的な見地やデータをもとに学習することで、郷土の良さを学ぶとともに、自ら、考え、行動する力を身につける良い機会となっている。



3年生では、佐世保特別支援学校との交流において、生徒達が自ら考えたゲーム等で特別支援学校の生徒達と実際に体験している。障害のある方々を理解し、優しく接することで他者を思いやる心の育成に繋げることができた。今後も体験学習を充実させることで心豊かな生徒の育成を目指していきたい。

(4) 部活動が盛んな文化

本校は88%の生徒が部活動に入部し、意欲的に取り組んでいる。部活動で人間性を育てる事を目標し、決して勝利至上主義になることなく全職員が常に生徒に寄り添い愛情を持って丁寧に指導に当たっている。特に、規則を守ることを重点的に指導している。部活動での人間形成と健やかな体づくりは生徒達の成長に必要な不可欠なものである。本年度も素



晴らしい内容で、九州大会へ出場し活躍する生徒を数多く輩出した。特に県中総体軟式野球競技では、再三の窮地にも臆することなく選手、応援生徒が一体となり粘り抜き好結果に結びつけたことは日頃の教育の成果である。

(5) 夢を夢で終わらせない文化

3年生では、6月に相浦・日野地区を中心とした49の事業所で職場体験学習を実施している。職場体験学習では、日頃、学校で学ぶことができない貴重な体験を行うことによって、職業観・社会性自己の生き方などを学び、今後の進路選択に向けて目標を明確にし、学習意欲を高める良い機会となっている。また、生



徒達が高齢者や幼児など、異年齢の人たちと関わることによって、思いやりの心や感謝の心を育てる場として定着している。更に、地域の多くの方々に本校生徒の姿を見ていただきその良さを知っていただくことにより、「開かれた学校づくりの推進」を前進させることができた。

12月には1、2年生においては高等学校の先生方を招聘しての高校説明会を実施し、その内容を各高校別に情報機器を活用しまとめさせた。その内容を学級で発表することで将来の目標について、具体的に考える機会となった。今後も3年間の学びを系統的に実践していくことで、生き方を考え夢を持たせ夢を叶えさせる教育活動を推進していきたい。

5 成果

- ① 豊かな心を育む教育活動の実践では、本年度のモットー「凡事徹底」～偉大なる凡人たれ～を全校生徒に浸透させ、学校全体で取り組んできた。また、全校で学校教育目標等を唱和する「朝礼五訓」を実施し、有意義な朝のスタートを実践した。その結果、生徒達の自覚も高まり、新たな良き伝統を築きあげている。さらに、学力向上については全国学力学習状況調査結果から改善傾向にあることが窺える。これは、全職員共通理解のもと実践した「相浦中学びのスタイル」の実践と授業アンケートを実施することで教職員の意識の変容が窺えたことによるものが大きく影響している。
- ② 美しい学校づくりの実践では、地域からも好評価を得ている玄関前の花壇の整備など良き伝統に継続して取り組むことで、生徒に責任感と愛校心を育成できたことは大きな成果である。また、「無言清掃」を実践することで生徒の更なる意識の高揚に繋げることができた。
- ③ 生徒自らが生き方を考え、その力を身につけさせる教育活動の実践では、生徒たちに体験活動を中心とした教育活動を取り入れることで、将来の生き方を考える良い機会となっている。また、地域の恵まれた環境を活用した学習を実践することで郷土愛と自然を愛する心を育成することができた。更に、地域の方々に本校生徒の姿を見せ、その良さを理解していただくことで、「開かれた学校づくりの推進」を大きく前進させたこと、地域と共に生徒が自ら考え決定し実践する力を身につけたことは新学習指導要領が求める「社会に開かれた教育課程」の実践に結びつく大きな成果である。

6 課題

- ① 今後の本校の大きな課題は現2年生の学力向上である。現2年生は基礎基本の定着が不十分の生徒が多い。この課題解決に向けて校長指導の下、取り組みの検証を定期的に行い、生徒の実態に即した「学びのスタイル」の実践と規律ある学校づくりをさらに充実させ、「チーム相浦」で授業改善を推進していくことが課題である。
- ② 熱い教師集団が全力で生徒を育てる姿勢を持つこと。そして、悩み事には親身になって対応し、生き抜く力をつけてやる愛情にあふれる教師文化を構築し定着させることが重要である。